

2005年7月15日

報道各位

ラサール インベストメント マネジメント インク

## ラサール アジア オポチュニティ ファンドⅡ 10億米ドルのシードマネーを調達 向こう3年で運用資産規模40億米ドルへ

ラサール インベストメント マネジメント インク（本社：米国イリノイ州シカゴ、最高経営責任者（CEO）：リン・サーバー）は、アジア太平洋地域を対象にした最大級の不動産ファンド「ラサール アジア オポチュニティ ファンドⅡ」が10億米ドル（邦貨換算約1,100億円）の資金調達を完了したことを明らかにしました。今後2～3年間で、運用資産を約40億ドル（邦貨換算約4,400億円）規模にまで拡大を目指す計画です。

ラサール インベストメント マネジメントのアジアパシフィック地域のCEOであるジャック・R・チャンドラーは、同ファンドの資金調達規模が10億米ドルを突破したことについて、「米国、欧州、中東、そしてアジアパシフィック地域の30有余の年金基金を核とする顧客から設定後わずか7ヶ月の短期間で資金調達ができただことに満足している。アジアパシフィック地域は近年、世界的に最も成長性を秘めた経済圏として注目されるとともに、不動産分野におけるファンダメンタルズの力強さ、そして市場の透明性の拡大によって、魅力的なリスク調整済みの投資収益を提供している」として自信の程をうかがわせています。

「ラサール アジア オポチュニティ ファンドⅡ」は、アジアパシフィック地域（日本、韓国、中国本土など）をターゲットとして、オフィスをはじめ商業施設、住宅、物流、高級リゾート、その他の商業不動産を積極的に取得していきます。すでに日本、韓国において同ファンドの20%に相当する9つの不動産に投資をしており、更にファンドの20%にあたる交渉中の案件があります。

ファンドプレジデントであるイアン・R・マッキーは、「弊社は、アジアパシフィック地域において、過去5年間で約30億ドル（邦貨換算約3,300億円）以上の投資を行ってきた。我々のアジアにおける運用実績と拡大する独自のネットワーク、そしてジョーンズ ラング ラサールグループとしてのネームバリューが相まって、アジア地域において質の高い不動産取得の機会を押し広げている」とこれまでの成功を語っています。ちなみにアジアに特化した最初の不動産ファンド「ラサール アジア リカバリー ファンド」は、約8億米ドル（邦貨換算約900億円）の運用資産規模で、安定した利回りを続けています。

注）ラサール インベストメント マネジメント インクは、ジョーンズ ラング ラサールグループ（ニューヨーク証券取引所上場：JLL）の傘下にあり、約260億ドルの運用資産（2004年12月末現在）を持つ世界的な不動産投資顧問会社です。ラサール インベストメント マネジメントは、広範な不動産資本市場において、私募、公募、デット、エクイティのあらゆる投資運用を行っています。

なお、このリリースは、「ラサール アジア オポチュニティ ファンドⅡ」の資金調達のクローズを報告するものであり、ファンドに対する投資を勧誘するものではありません。

本件に関する問い合わせ先：

ラサール インベストメント マネジメント株式会社

広報担当：竹江（IFC）

Tel：03-5532-8921 Fax：03-5532-8367 e-mail: h-takee@ifcpr.co.jp